

タイムスケジュール

10:00	受付開始
10:30	開会挨拶・オリエンテーション 一般社団法人全国食支援活動協力会
10:35	本事業の考え方 「住民のやる気を引き出す支援」が必要な背景とアセット重視の考え方 講師：内藤 佳津雄 氏（日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長）
11:00	パネルトーク 「住民のやる気を支えるには」～住民の思いと支援～ 進行：平野覚治 氏（全国食支援活動協力会専務理事 / ワーキング部会会長） 登壇者：鈴木訪子 氏（東京都荒川区社協地域福祉活動促進専門員 / ワーキング部会委員） 水橋佑介 氏（金沢市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター） 松下典子 氏（NPO 法人ゆいの会理事 / 研究委員） コメント：中野智夫 氏（長久手市福祉部次長 / 研究委員）
12:30	昼休憩（60分）12:30～13:20
13:20	ワークショップⅠ “協働的”態度で話をさく ファシリテーター：内藤 佳津雄 氏 （日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長）
13:35	休憩（10分）13:35～13:45
13:45	ワークショップⅡ 活動支援プランニングシートの使い方 ファシリテーター：全国食支援活動協力会
16:00	アンケート記入、閉会

“住民主体の活動”を育てるには？ ～住民のやる気を支える支援を学ぶワークショップ～

愛知会場



日時 令和2年3月10日（火）10:30～16:00
会場：ウィルあいち1階 セミナールーム

主催 一般社団法人 全国食支援活動協力会

「住民のやる気を引き出す支援」が必要な 背景とアセット重視の考え方

内藤佳津雄 氏 (日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長)

「住民のやる気を引き出す支援」が
必要な背景とアセット重視の考え方

日本大学 内藤佳津雄

住民参加による生活支援等支援を開発する必要性

背景

総人口（とくに生産年齢人口）の減少

（ただし、老年人口は2040年代まで増加）

家族構造の変化（独居・老々世帯の増加：家族以外の生活支援力が必要）

地域における人間関係の変化（孤独・孤立の発生）

地域における社会的資源の変化（公的支援力の低下）

●人口減少・超高齢社会に対応できる社会・地域づくり
地域における生活像

身体的健康（フレイル、低栄養等）

社会的関係（孤立・孤独に陥らない）

心理的健康（幸福感、満足感など）

日常生活の自立・自律

「インフォーマル」な社会参加&介護予防、生活支援が大きな課題

医療・介護や
公費による支援
だけでは困難

生活支援コーディネーターの皆さんへ

- 生活支援コーディネーターの役割として・・・
 - 総合事業の通所型サービスBを作りたい
 - 介護予防を担うグループ活動を作りたい
 - ちょっととした訪問型支援の担い手を増やしたい
- どれも重要な政策課題！しかし、ボランティア活動、住民参加型活動としての担い手がなかなか見つかからない、引き受けてくれない、広がらない
- 必要性を説いて強く押してみる方法もありますが・・・
- ボランティア活動とは、どういうもの？
- ボランティアは何をしたいの？
- <もう一度立ち戻って考えないと活動は広がらないかもしれない>

住民参加による生活支援サービスの必要性

- 地域の課題解決に関心がある人
 - 地域の他者のために何かをしたい人
- 実はいる（例えば、子ども食堂）が見過ごされがちである
- 住民参加・ボランティア活動は、活動者自身が「やりたいこと」をしたい
「やりたいこと」は、活動者自身が価値を感じたことである
「やりたいこと」は不明確だが、地域のために貢献したい人がいる
- 他者に貢献する活動を地域に作っていくには、こうした発見されにくい「やる気」を育てる積極的支援が必要

アセット重視の考え方

図表3-1 ニーズ重視とアセット重視

	ニーズ重視	アセット重視
着眼点	ないもの	あるもの
対応の仕方	不足を補う	強みを伸ばす
住民との関係	住民に向けて	住民とともに
住民参加の度合い	低い	高い
時間幅	短い	長い
主な対象	個人	コミュニティ
評価の重点	客観性	主観性
基本的な問い	「なぜ病気になるのか？」	「なぜ健康になるのか？」

- アセット重視の特徴

「あるもの」＋「長い時間軸」に着目して、まずはできるところから始め、時間をかけて市内町内全域に普及させていく。

ニーズ重視の支援はマイナスイ面について評価する（調査）が、アセット重視では、まずはあることが重要なので。プラス面に向けて評価を行う。

アセット重視の支援の始まり

- まずは思いをよく聞くこと

地域の集まりやボランティア講座などで「地域で人のために何か活動をしたい」という思いをもった人との出会い

- 思いや意向を詳しく聞いてみる・・・思わぬ強みや良さが分かるかも（アセットの発見）

（例）

地域の中で集まれる場を作ってみたい
閉じこもりがちな近所の高齢者のことが気になっている
楽しいことなら友人も一緒にやりたいと言っている
空いている部屋があって、住み開きに興味がある

- 小さなことでも価値があり、小さなことからでも始められる
- ・はじめからボランティアが揃わなくても
- ・活動計画が立てられなくても
- ・できることから始めればよい。

肯定的に認められることで前向きになり、活動につながる

- マイナス面ではなくプラス面を見つける
事業や制度の枠に当てはめると、条件を満たしていないこと（マイナス面）に目が行きやすい（ニーズ重視に陥らない）
- ・構成メンバー3人しかいないから、「できない」のではなく、最初は3人もいと捉える

※単に住民の要望をかなえるのとは違うことに留意する

地域課題を感じて、自発的に活動を始めようとしていることが重要
(営利でない、政治や宗教活動でない、公序良俗に反しないが前提)

活動への「やる気」を高めることが重要

- ・内発的動機づけ（外的報酬によらないやる気）
本人にとつての興味や好奇心、楽しさによるやる気
- ・・・・ボランティア活動の一番の原動力は内発的動機づけ

●内発的動機づけを高める要因

- ①自分の目標に価値がある+達成できそう（有能感）
- ・周囲から社会的に価値を認める
- ・目標に向けてどのように行動したら目標を達成できるのか道筋が明確
- ②自分で目標や方法を決めること（自律性）
- ・やらされ感の高い状況（ルールに縛られすぎ、他人の言うことばかり聞かないといけない）は内発的動機づけを低下させる
- ③良い人間関係
- ・好感や信頼感といった「人間関係の良さ」があることにより、はじめてこちらの話を聞いてくれる
- ・そのために、まずは相手の話を聴き、信頼感を作っていくことが大切

アセット重視な活動への支援

- 小さな活動、福祉とは違う分野の活動も大切な地域資源

- (例)
- ・数人の仲間で行っている
 - ・編み物や囲碁将棋などの趣味の集い
 - ・犬の散歩で出会う顔見知りの人たち
 - ・環境や市民活動などをテーマにしたくまちづくり活動>

- こちらが作りたいた活動にすぐにはマッチングできない
- ・地域資源（アセット）を一つ一つ増やしていき、良好な人間関係を形成していきましよう（ネットワークづくり）
- ・思いもよらないときにつながることもある
- ・良好な関係の中からこそ、こちらの話を聞いてくれる人が現れる

(例) 「子どもの居場所にきている小学生」が、数日入院する高齢者の「犬の散歩」をお手伝い→居場所までの送迎に、デイサービスの使っていない時間帯で車両を貸してもらえる

参加型の居場所づくりを基盤とすることを勧めする理由

- アセット重視で取り組みやすい活動形態である
- 気のあう仲間、自宅でもできる、活動形態は自由
さまざまな頻度が可能：毎日オープン～月1回 規模も多様：少人数～活動内容も多様：会食、健康体操、学習支援、プログラムなしでも可能
- 担い手と受け手が対等
- 子ども～高齢者の参加による多世代の交流
(例) 食事を提供するとき、小さな子どもも配膳をしたり、スタッフと参加者が一緒にテーブルについて食べたりすることができる
- 食を人を集めてつなぐ
食事の提供を中心に据えた居場所・・・美味しいものをみんなで一緒に食べる楽しみは、人と人を結びつける、地域文化の継承、健康づくりなど多くのメリットがある
- 多様なサービスが生まれる基盤となる
お互いの困りごとを知る機会・解決しようとする動きにつながる（プラットフォームとして）の機能

「住民のやる気を支えるには」 ～住民の思いと支援～

進行:

平野 覚治 (全国食支援活動協力会専務理事 / ワーキング部会部会長)

登壇者:

鈴木 訪子 氏 (東京都荒川区社協地域福祉活動促進専門員 / ワーキング部会委員)

水橋 佑介 氏 (金沢市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター)

松下 典子 氏 (NPO 法人ゆいの会理事 / 研究委員)

コメント:

中野 智夫 氏 (長久手市福祉部次長 / 研究委員)

登壇者プロフィール

鈴木 訪子 氏

荒川区立保育園の保育士を退職後、障がいのある子をもつ親の会荒川のぞみの会の放課後の遊びの会の活動を取り組むなかで、おもちゃ図書館をつくる。1986年より、荒川区社会福祉協議会におもちゃ図書館が常設となり、入職。現在は、地域ネットワーク課で、ボランティア・地域福祉活動を担当。

水橋 佑介 氏

2010年 金沢市社会福祉協議会入職。

2012年 地域福祉課配属。地区社協支援業務の他、介護サービス事業者連絡会等団体事務、介護人材育成に関する業務を担当。

2018年4月 生活支援体制整備事業受託に伴い、第2層生活支援コーディネーターとして担当地区の地域福祉活動支援に専従。市内中心部から山間部を含む14地区を担当し、住民同士の支え合いの場や仕組みづくりを支援しています。

登壇者プロフィール

松下 典子 氏

NPO 法人ゆいの会 理事

知多市第1層生活支援コーディネーター (2016年～)

1991年地域福祉ボランティアグループ「結びの会」有償部門「ゆいの会」、住民互助在宅サービス団体設立代表 1994 さわかやが福祉財団インストラクター、2002年ゆいの会退任、地域福祉サポーター代表、2005年、知多地域成年後見センター設立、2009年、日本福祉大学サービスマーケティング非常勤講師等を経、2015年、地域の居場所「つつじが丘3ハウス」、「知多市民をつなぐLinkちた」を仲間とともに立上げ、学びと実践の場づくり、NPOの基盤づくりをしている。

中野 智夫 氏

長久手市役所 福祉部 次長兼長寿課長

平成5年 入庁。経済課配属。

平成9年 区画整理課配属。

平成14年 愛知県実務研修生として、国際博推進局事業調整課。

平成16年 万博推進室配属。

平成18年 福祉課配属。

平成24年 長寿課配属。

趣味はバレーボール。



荒川区社会福祉協議会
地域ネットワーク課 地域福祉活動促進専門員
鈴木 訪子

住民が主役の地域づくりを

荒川区社会福祉協議会の主な事業

1. 地域福祉事業
 - ・おもちゃ図書館子育て交流サロン活動・ふれあい絆・活サロン事業、
2. ボランティアセンター事業
 - ・ボランティア活動の推進、福祉教育の推進、地域活動サロンふらっと、フラット事業
3. 在宅福祉事業
 - ・車椅子の貸し出し、有償在宅サービス事業・にこにこサポート・障害児者移動支援
4. 成年後見センターあんしんサポートあらかわ
5. 生活福祉資金の貸付・受給生チャレンジ事業
6. 助成事業、地域福祉活動助成、福祉団体・施設への助成
7. 被災地・被災者支援活動
8. 区受託事業、障がい者就労支援じよぶ・あらかわファミリー・サポート・センター
 - ・手話通訳派遣事業、手話講習会
9. 指定管理施設の運営
 - ①高齢者福祉施設3施設、荒川老人福祉センター、荒川東部在宅高齢者通所サービスセンター、西尾久西部在宅高齢者通所サービスセンター
 - ②障害者福祉施設4施設
 - ・荒川区立福祉作業所、荒川生活実習所、あらかわ希望の家・分場、障害者福祉会館アクロスあらかわ

荒川区ってこんな町

- 人口 217,278人（内外国人19,353人）117,295世帯
- 高齢化率 23%
- 面積10.16km²
- 町会・自治会 119 商店街40
- 民生委員児童委員 7地区 200名
- 主任児童委員15名
- 高齢者クラブ
- 地域包括支援センター・高齢者みまもりST 8か所
- 公立小学校24校 中学校10校 私立中高校2校 都立高校・高専2校
- 保育・介護専門学校1校 大学1校
- 再開発が進み、人口が増加。子育て世代が増加。交通は便利



高齢者にも障がいのある人にも子ども連れの親にとっても乗りやすい都電が走り、地域活動に参加しやすい環境



ボランティアセンターは 敷居の低いよろず相談の窓口

- ・ボランティア活動をしたい・ボランティアの力を借りたい
- ・どこに相談に行ったらよいかかわからない
- ・寄付をしたい・活動のための助成金を得る方法はないか
- ・自分の家を地域活動に使ってほしい
- ・路上で生活している、食べ物をもらえないか？
- ・ひとり暮らしの高齢者が沢山の猫を飼っていて、糞尿などの匂いで近所が困っている
- ・科学物質過敏症のため、外出ができない など

地域住民・ボランティアさんの立ち寄り所

- ・おもちゃ図書館子育て交流サロンに遊びに来る子育て中の親子とボランティアさんたち
- ・使用済み切手やペットボトルキャップを届けてくれる人
- ・不要になった物品を寄付してくれる人
- ・ふれあい絆・活サロンの担い手さん
- ・民生委員さん、町会・自治会の役員さん
- ・様々な障がいのある人々
- ・家族介護者など
- ・「そばまで来てから顔を来た」というボランティアさん

様々な地域情報が
が入ってくる

心がけていること
★どんな話も
しっかりと
傾聴する

★断らない
すぐに解決でき
ないことも多
いけれど一緒
に考えてみる

★できない理由を
探すのではなく
どうすればでき
るかを考える

荒川区の地域力を活かして～ボランティアセンター・プラットフォーラム



全社協・東社協・おもちゃの図書館全国連絡会・全国の子ども食堂のネットワーク など

相談 課題をつなぐことで 新たな活動を作り出す

荒川区の強みを活かして街づくりを

- きどらず普段着で暮らせる街
- 困っている人がいるとほっとけないおせっかいな人が多い
- 都電が真ん中を走り交通の便がよく外出がしやすい

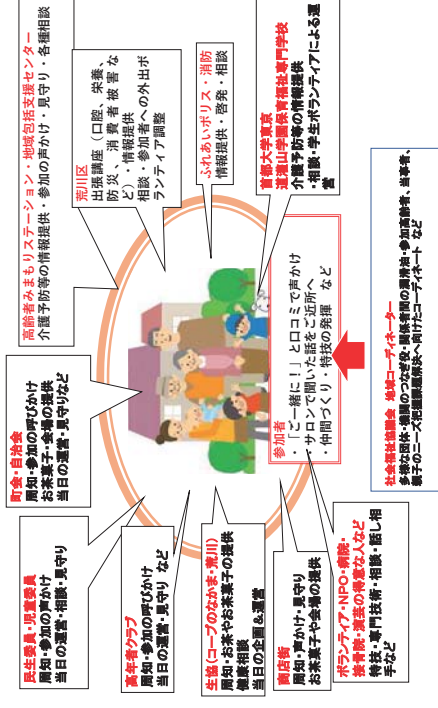


- 面積が小さい～最長距離でも自転車ですら1時間かからない
- 住民の口コミカ

商店街がたくさんある

平成14年度から、ネットワーク型サロンづくりをスタート

顔と顔がつながり、助けたり助けられたりする関係をつくるために～サロンづくり



ネットワーク型ふれあい牌・活サロンで地域づくり

孤立・閉じこもりの防止

- 〇歩いて行けるとところにサロンがあるので気軽に出かけられ様々な人とふれあいがあり孤独感が癒され楽しみができて、閉じこもりの防止につながる
- 〇決められたプログラムはないので、気楽に参加できる
- 〇おしやれして出かける場

地域の方々と知り合い 関わりができる

- 〇普段同じ町内に住んでいるのに、全く知らなかった人達にとっては地域交流の拠点になり、地域の中にと人と人とのつながりをつくる。

生活に役立つ情報が手に入る

- 〇同じ高齢者、子育て中の親連や地域の様々な立場の人々やボランティアと関わることで情報交換の場となり、福祉をはじめとする地域の情報や暮らしに役立つ情報が直接手に入る





ネットワーク型ふれあい絆・活サロンで地域づくり

生活上の困りごと・心配ごとを発見・相談・解決

- 気軽に参加しおしゃべりをしていて、暮らし中での困りごとや心配ごとを聞くことができ、高齢者みまもりステーション、地域包括支援センター、民生委員、社協など様々な立場の人々が参加しているので、その場で解決につながる。
- 一人の相談から地域全体の問題として取り組むきっかけになる。

ネットワークで地域の福祉力を高める

- サロンの推進者である民生委員・児童委員、町会、商店街、ボランティア、高齢者見守りステーション・地域包括支援センター、行政、社協など、小地域福祉活動のキーパーソン同士がサロンを通じて連携することで、小地域での、見守りのネットワークが広がり、日常的な個別支援につなげていくことができます。

毎月 必ず顔を合わせることで、顔と顔がつながり ネットワーク力に

様々な思いを活動に テーマ型サロン

多様なニーズを解決するテーマ型サロン

- 家族介護者のサロン 男性介護者のサロンM
- 認知症のためのサロン 家族のためのサロン
- ろう高齢者のためのサロン ふくろうの会
- 私の話しをじっくり聞いてほしい ～傾聴サロン
- シングルマザーサロン～子どもの貧困は、親が貧困な状況に
- 不登校支援ネットワーク～カトリバ(当事者サロン)
 - ～ツナグバ・ソフィア(当事者と支援者サロン)
- 子ども食堂～ひとりぼっちでごはんを食べる子どもたちを、地域で支えたい
- 多世代交流地域食堂～子どもから高齢者まで多世代で食を囲んで交流
- 地域食堂～高齢者・特に男性高齢者のための会食サロン
- ひきこもり家族会サロン
- ふるさとサロン～東日本大震災で避難してきた方々

ひとりぼっちをつくらない



サロン活動から、地域のたすけあいの仕組みづくり



サロン担い手交流会で、地域課題の抽出とその解決に向けての取り組みについて協議

サロンの参加しない人々をどのように見守るか？

SOSを出せない、出さないう人へのアプローチをするには

ふれあい絆・活サロン96か所(令和2年2月現在)

地区ネットワーク型サロン 56か所
 ●南千住地区9 ●荻川地区11 ●町屋地区6
 ●東尾久地区5 ●西尾久地区8 ●東日暮里地区8 ●西日暮里地区9

子育てサロン 3か所

介護予防サロン 11か所 ※毎週1回実施

テーマ型サロン 26か所

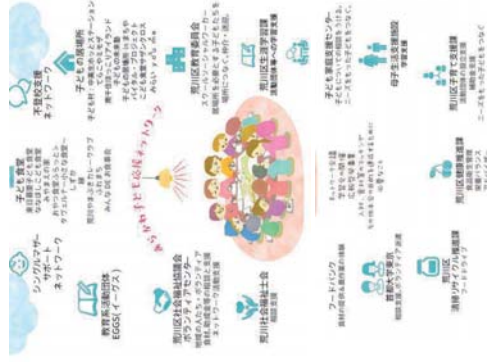
子ども食堂・子ども居場所活動が広がり、住民と行政と専門機関などのネットワーク「あらができ」子ども応援ネットワークが増え活動が見えろ化



高齢者 特に、サロンには参加しない男性高齢者が参加したいと思う子ども食堂のような食堂をつくりたい！
ひとり暮らし高齢者は食生活も心配



地域食堂・多世代交流地域食堂



コミュニティカフェ立上げ支援 空き店舗が地域の居場所 ～天親カフェの取り組み～



社会福祉法人金沢市社会福祉協議会
第2層生活支援コーナー
水橋 佑介（社会福祉士）

説明内容

- ① 地域の概要説明（金沢市・味噌蔵地区・天神町）
- ② 金沢市社協における地域福祉活動支援の体制について（生活支援体制整備事業）
- ③ 天親カフェの取り組み内容（コミュニティカフェ・子どもの学習支援）
- ④ これまでの支援経過
- ⑤ 支援する上で意識したこと・心がけたこと

金沢市・味噌蔵地区・天神町の概要

(H31.4.1時点)	金沢市	味噌蔵地区	天神町
人口	451,817人	6,685人	1,727人
高齢者数	119,075人	2,314人	524人
高齢化率	26.4%	34.6%	30.3%



- ・金沢市は、石川県の県庁所在地で中核市。地域福祉活動の基本圏域として、概ね小学校区単位に54の地区社会福祉協議会が組織されています。
- ・味噌蔵地区は、市内中心部に位置し、地区内には金沢城公園や兼六園があり、加賀藩時代からの町家も多く残る地域です。
- ・天神町は、藩政期の街道沿いに商店街が栄え、長年地域で暮らされている方も多く住民同士の交流が残る一方、独居高齢者の増加が心配されています。



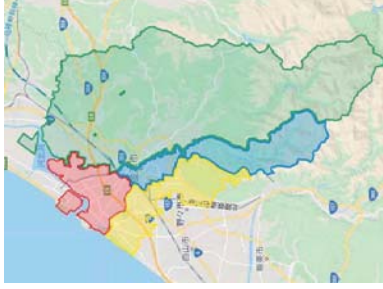
- ・天親カフェは「天親会」という単位町会（自治会）の取組みになります。
- ・天親会は約160人/60世帯（6班）で構成されています。



通り沿いの元酒屋さんがカフェです

金沢市社協における地域福祉活動支援の体制 (生活支援体制整備事業) について

- 生活支援体制整備事業（金沢市委託事業）で、金沢市社協に生活支援コーディネーター（SC）5名配置。
（第1層1名、第2層4名）
- 第2層SCは19の日常生活圏域（概ね中学校区）のうち、3～7圏域（小学校区11～15地区）を担当しています。
- SCの主な業務として、担当地区における住民同士の支え合いの仕組みづくり「**地域安心生活支え合い事業**」の企画支援や、「**地域支え合い百万石通信・ブログ**」の作成を通じて支え合い活動の見える化を行い、地域福祉活動支援を行っています。



第2層SC別担当圏域

地域安心生活支え合い事業

- 各地区社協が主体となり、地域内のニーズ調査や様々な関係者と協議し、住民が気軽に参加できるちよっとしたボランティアの仕組みづくりを行う事業です。
- コミュニティカフェの立上げや送迎による買い物支援の取組み等、地域の実情に合わせた活動が展開されています。



地域支え合い百万石通信・ブログ

- SCが地域の様々な支え合いの取組みを取材し、取材結果をまとめたレポートおよびブログを作成しています。
- 取材を通して取組みの効果や価値、強み等を見える化し、活動が地域にとって大切な役割を果たしていることの理解促進や、専門職向けに社会資源情報を提供しています。



天親カフェ取組み概要

会場：旧広岡酒店

日時：毎週火曜日午前10時～午後4時

- 「以前は人の往来もあり、井戸端会議やあいさつがあふれる町だった」「一人暮らしの方が増えて、死後1週間誰にも気づかれなかった方もいた」「顔見知りになったり会話ができる場所を作ることが必要じゃないかな」
- ⇒町内の仲良しグループ数人が町の現状について話し合う中で、「**町内で交流できる居場所作り**」の必要性が浮かびあがりました。
- 町内に元酒屋だった店舗スペースが空いており、カフェの運営メンバーが手作業で飾りつけて、誰もがちよっと寄っておしゃべりできる居場所として天親カフェをスタートしました。



- カフェは飲み物とお菓子が用意され、参加者は1杯100円の協力を寄付する形で運営されています。

- 体操や手芸といったプログラムは用意せず、集まっておしゃべりするだけの居場所です。
- 訪れる多くの方から、**顔を合わせておしゃべりすると安心感が得られることや、カフェが毎週の習慣になっている**という声をお聞きます。





- ・カフェの運営にあたり町内外から様々な協力を得ています。
- ・昔の町内の写真や町会行事の記念写真の提供
- ・テレビやコンボ等の設備の寄付
- ・昭和のチラシやポスターの展示
- ・料理やお菓子の差し入れ



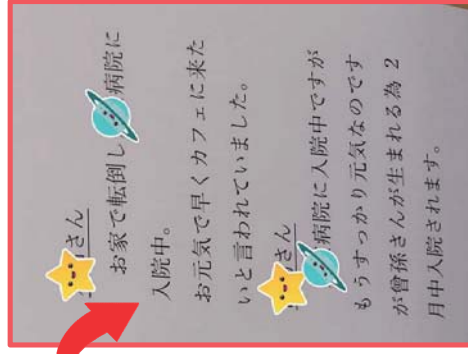
差し入れ

カフェに寄るついでに向かいの魚屋で買い物される方も多いです。

参加される方の声に応じて、火曜日以外にもカラオケ等のイベントを開催しています。



- ・カフェ内には掲示板を設置し、参加者同士の情報交換に活用しています。
- ・入院した情報を町内の方に把握してほしいという希望の方もおり、運営メンバーが文章起こして掲示しています。



★さん
お家で転倒し、病院に入院中。
お元気で早くカフェに来たいと言われています。
★さん
病院に入院中ですがもうすっっぱり元気なのです。が曾孫さんが生まれる為2月中入院されます。



町内の多世代が関わるきっかけになるように、天親カフェでは様々な企画をしています。

12月には町内の子ども達を招いて、クリスマス会を開催しました。

他にも出張天親カフェとして、近隣の有料老人ホームの交流スペースを借りて、大学生のアカペラサークルによる演奏会を企画したこともあります。

また、せつかくカフェの場を整えたので、火曜日以外も活用できればという声があがってきました。

そこで、多世代にとつて身近な居場所を作りたいたいという趣旨から、子ども達向けに新たな取組みを始めました。

天親カフェ寺子屋取組み概要

会場：旧広岡酒店

日時：毎週木曜日午後3時30分～午後6時

- ・ 町内の小中学生が放課後に宿題やドリルに取組みながら、交流できる身近な居場所として、子どもたちの学習支援の取組みを行っています。
- ・ 金沢大学の大学生ボランティアに先生役をお願いしています。
- ・ 子どもにとって、**家庭や学校以外の第三の居場所となる空間**を目指しています。



宿題を持ち込んでみんなで取組んでいます。



- ・ 小学校低学年～中学年の子どもが多く参加しています。
- ・ 平均5名程度の参加があり、異学年でも交流して仲良くなる場になっています。

これまでの支援経過

時期	天親カフェ運営メンバーの動き	当方の関わり
数年前より	・ 町内の関係の希薄化を共有 ・ 居場所づくりの必要性を認識	
H30.12～H31.1	・ 新聞報道（市社協の地域づくりに関する研修会の記事）を見て、市社協に相談 ・ 市内にある町会主体で運営しているコミュニティカフェを見学	・ 相談時点の居場所づくりに対する考え・思いを聞き取り ・ 先行事例の見学を提案し、見学調整 ・ 行程 & TODOを整理
H31.2～H31.3	・ メンバー間でカフェの運営方法等話し合い ・ 天親会の総会で取組み案を提案、承認	・ 運営メンバーの自主性に任せて合意形成を見守る
H31.4～R01.7	・ カフェの予算立て、スケジュールを協議 ・ 市にコミュニティ活性化事業助成金を申請 ・ 会場の掃除、飾りつけ等の準備	・ 予算立ての考え方を助言 ・ 助成金に関して申請方法、疑問点等を市役所に確認
R01.8～R01.12	・ 8月天親カフェオープン ・ 9月天親寺子屋オープン	・ 2～3ヶ月毎に様子を行い、その都度悩みや不安を把握

支援する上で意識したこと・心がけたこと



運営に携わる方々がつづ疑問や不安点の明確化と、解決に向けた方法の選択肢の整理

- ・ 関わり全体を通して、疑問や不安に思うことを一つ一つ洗い出し、**何のどの点に対して課題と感じているのか明確にすること**で、解決策を考えやすくなるよう、ヒアリングと考えの整理を特に意識しました。
- ・ 主にお金に関する不安があったので、助成金の種類や要件、自主財源、寄付の考え方等について情報を提供しつつ、天親カフェに適した方法を納得して決めてもらえよう関わりました。



運営に携わる方々間の話し合いの機会を尊重

- ・ 当事者間で話し合ってもらうことを重視し、メンバー間の話し合いや打合せ、町会総会での提案等の機会には加わりませんでした。
- ・ 当事者による合意形成をしてもらうことが、**取組みを自分事だと捉えてやる気を引き出すことにつながる**と考え、あえてその場には参加しないようにして、その分事前の打合せや情報提供は丁寧に行いました。

～ 住民のやる気を支えるには ～

“市民発”の地域の居場所

NPO法人ゆいの会

松下典子 2020.3.10

住民互助在宅サービス団体の実績活用

● 立ち上がりの経緯

- 1990年～ “何とかしたい！”暮らしの課題、地域の課題
ボランティアグループの助け合い活動
- 1999年～ 活動の組織化、法人化、社会的信頼
助け合いの継続的運営の基盤づくり
- 2000年～ **介護保険スタート**
- ① 制度の限界。急変するくらいし
 - ② 核家族化、一人世帯。
 - ③ 孤立、多様な価値、バラバラ地域
 - ④ 住宅開発地の未知の地域共同体

知多市の概況

- 人口 85,190人 (平成31年4月1日現在)
- 高齢化率 27.27%
- 介護保険実施主体 知多北部広域連合 (3市1町)

■ 生活支援体制整備事業

CO: 第1層SC H28年 NPO法人 受託
第2層SC H29年 NPO 3法人 受託
H30年 社会福祉協議会 受託
協議体委員会: 事務局NPO法人受託
毎月、行政、社協、NPOの3者会議



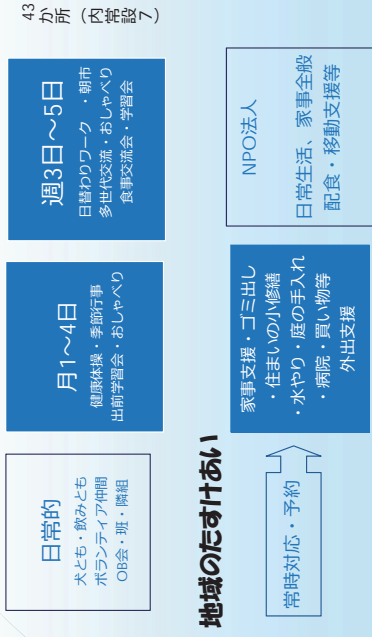
全く新しい時代

みんなで話し合い、考え、みんなで創る

常設居場所とは**地域みんなの生活学級**

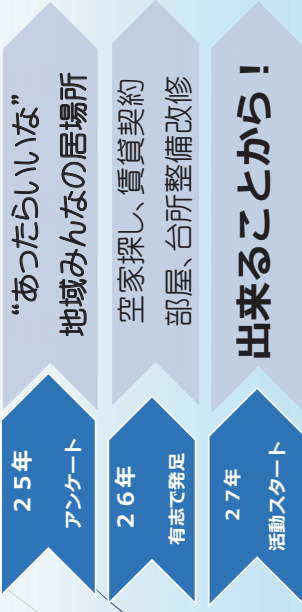
- ① 普段の暮らしを学び合う
- ② できる人ができる事からチームで実践
- ③ **住民が創る、不公平な地域福祉**
- ④ 住民自治、もう一つの公共

居場所・サロンのいろいろな姿



発足の経緯

～地域の居場所～



居場所の事例 みんなの参加でつくる地域の居場所



つつが丘3ハウス全景

つつが丘3ハウスの概要

- 所在地: 知多市つつが丘3丁目6-7
- 番: 0562-55-7388
- 会員数: 61名(11月現在)
- 活動資金: 年会費(1000円)・サロン参加費(100円)
寄付・自主事業(サークル参加費他)
- H30年度実績
- 運営委員: 12人
- 参加人数: 延べ 3,371人/年
- 決算: 1,469,596円(市補助金・家賃:30万円+
運営費30万円含む)

活動内容

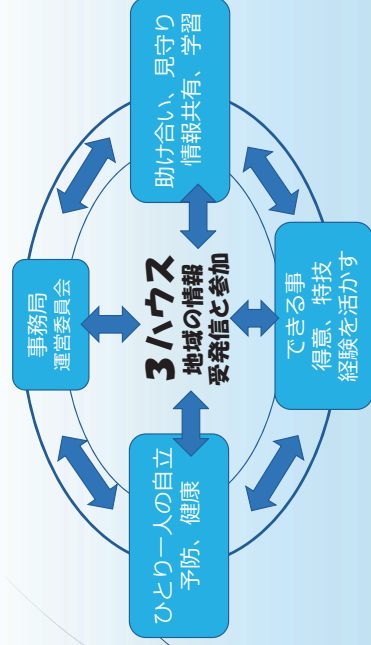
月曜日～金曜日 毎日オープン
9:30～12:30

- しゃべり場サロン
- モーニング (月・水)
- 予防、健康体操
- 文化・サークル活動
- 季節のイベント、部屋貸し
- 学習会・相談

成果が出るまでに時間がかかる = 活動現場の伴走支援



“お互い様”の気もちが響きあう拠点



NPOの取り組みとCO、中間組織の設置

資源
開発

- ・住民参加在宅サービスの見える化、事業(PDCA)化
- ・居場所が新しい時代の暮らし方、生き方の学びの場
- ・既存組織、地域の公共機能の再考、協議、協働創設

ネット
ワーク

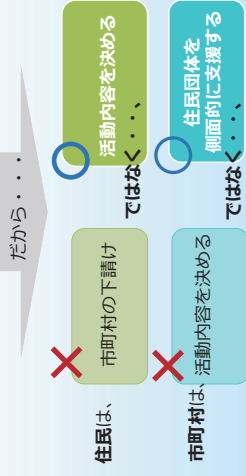
- ・トップダウン(垂直)とボトムアップ(水平)の連携、協働
- ・テーマ、エリア、既存組織等、多面的重層的連携、協働
- ・人と組織の連携、協働を調整機能NPOの中間組織が必要

協議体

- ・変化、複雑化する個人と地域の暮らし、解決の提案
- ・課題共有、整理、できる事の役割と地域支援を協議
- ・市の施策、各種計画づくりに反映し住民自治力の構築

“助け合い”の実施主体は誰？

“助け合い”の実施主体は、「住民主体」である



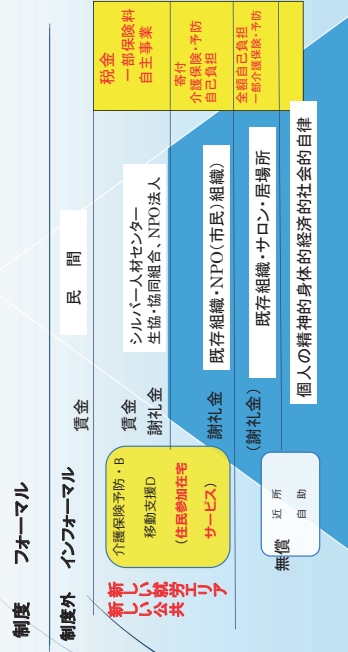
出典：「住民主体の生活支援推進委員会」(2011年)「住民主体の生活支援推進委員会」(2011年)「住民主体の生活支援推進委員会」

「協働的態度で話をきく」

信頼関係を形成して活動への動機づけを高める

内藤佳津雄 氏 (日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長)

持続可能な仕組みにするために 地域住民と生活支援の仕事づくり



協働的態度で話をきく

信頼関係を形成して
活動への動機づけを高める

日本大学 内藤佳津雄

協働的關係の形成に必要な基本的姿勢

①内発的動機づけを阻害する言動をしない

相手にいじわるをしない、けちをつけない
こちらの価値観や考え方、求めることを押しつけない
◎相手の強みやよさを積極的に評価すること

②話を聴く姿勢を示す

基本的態度として相手の話を聴こうとすることが大切
話を聴こうとする気持ちが根底に求められる

③熱意をもって対応する

相手を支援する行動を示す
・支援の方策を全力で考える
・時折訪問して活動を見る など

話を聴くときの基本的な姿勢や行動
相手に「聴いている」態度を明確に示す姿勢が基本

・視線、まなざし

基本的に視線を向ける（凝視しすぎない）
メモや資料ばかり見ない
視線を向けるときは数秒間は必ず向ける
（「ちらっ」と見ない）

・目線：同じ高さ（同じ椅子に座る）

・表情：困った顔や不快そうな顔をしない

・座る位置：相手と90度の角度か、斜め向かいに座る
（真正面に座ると強制感が高まるので、避ける）

・座る姿勢：相手側にやや前傾（背もたれに寄りかからない）

・くせに注意：腕組や脚組は威圧的になるのでやめる

話を聴いていることを積極的に示す応答
相手の話を引き出す質問力と励まし

・積極的なうなずき・あいづち

バリエーションをつける

・反復を活用する

相手の話のポイントを繰り返す

・とくに感情や意思を示した発言は繰り返して共感

ボランテティア

「男性向けの活動を何かやりたいと思っています」

コーディネーター

「男性向けの活動をやりたいと考えていらっしゃるんですね」

・基本は広がる(openな)質問を使う

閉じた(closedな)質問(はい・いいえで答えられるような質問)
ばかり続けると事務的で押しつけられている感じになりやすい

- **相手のやりたいこと、目標などを認める**

相手にとってのよいこと、価値を感じていることに対してポジティブな感情を示す。

(価値を共有：やる気を高める)

「良いですね」、「面白そうですね」、「素晴らしい」

- **課題が発見されたら解決に向けて協力するなど、励ます**

課題はそのまま放置すると不安になるので、解決に向けていっしょに取り組むことを明言

コーディネーター 「協力者はいますか？」

住民 「いえ、いません」

コーディネーター 「そうですね」(ここで止めると「いない」結論で終わってしまい不安)

コーディネーター 「では、見つける方法を一緒に考えていきましょう」

- **解決策として提案があるときには、最後に同意を求める**

コーディネーター

「…という方法もありますが、どう思いますか？」

(「提案をすぐにやりますように」と伝えるのではなく、相手に必ず感想や同意を求めながら進める)

.....
[お問合せ先]

一般社団法人 全国食支援活動協力会
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21
☎ 03-5426-2547
Fax 03-5426-2548
E-Mail infomow@mow.jp
.....